

<終末期医療について>

終末期医療のあり方に関する懇談会

■ 終末期医療のあり方に関する懇談会

- 平成20年3月に実施された一般国民及び医療福祉従事者（医師、看護職員、介護施設職員）に対する終末期医療に関する調査、関係者からのヒアリングをもとに、日本人の死生観、倫理観等を踏まえて、終末期医療の現状の問題点の抽出、終末期医療の考え方の整理及び望ましい終末期医療のあり方について検討を行った。
- 平成20年10月から計6回開催し、平成22年10月に「終末期医療のあり方に関する懇談会報告書」がとりまとめられた。

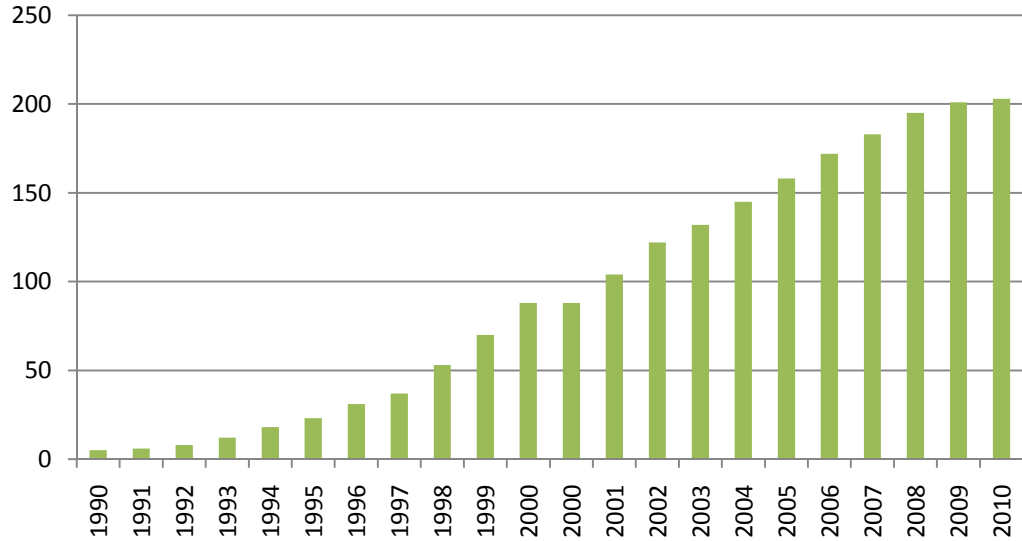
■ 終末期医療のあり方に関する懇談会の主な意見の概要

（「終末期医療のあり方に関する懇談会報告書」（平成22年12月）より作成）

- リビング・ウィルの法制化については慎重な意見が多かったが、リビング・ウィルが患者の意思を尊重した終末期を実現する一つの方法として、リビング・ウィルを作成する際も、意思決定に至る過程において患者・家族に十分な情報を提供し、「終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」に記載されているようなプロセスをさらに現場に浸透させ、充実させていくことが望まれる。
- 医療福祉従事者から十分な情報提供や説明を行うためには、医療福祉従事者が終末期医療に関する知識を十分に備えた上で、患者、患者家族及び医療福祉従事者が話し合う機会を確保していくことが必要である。
- 緩和ケアについても、終末期医療と同様、患者や家族の暮らしを支える観点が必要であり、緩和ケアを提供できる場所の拡大や、緩和ケアに関わる医療福祉従事者に対する正しい知識の普及が重要である。
- 患者をそばで支える家族へのケア、遺族に対するグリーフケアについて今後議論を深めるべきである。

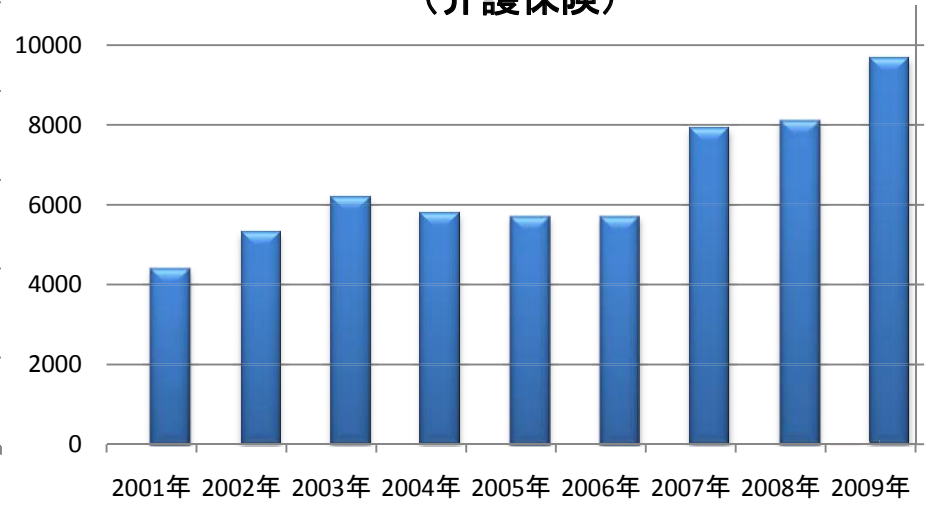
我が国の終末期医療の現状

緩和ケア病棟入院料届出受理施設



出典) 特定非営利活動法人 日本ホスピス緩和ケア (http://www.hpcj.org/what/pcu_sii.html)

訪問看護におけるターミナル加算の算定回数の推移 (介護保険)



■ 訪問看護 ターミナルケア加算の算定回数(年間)

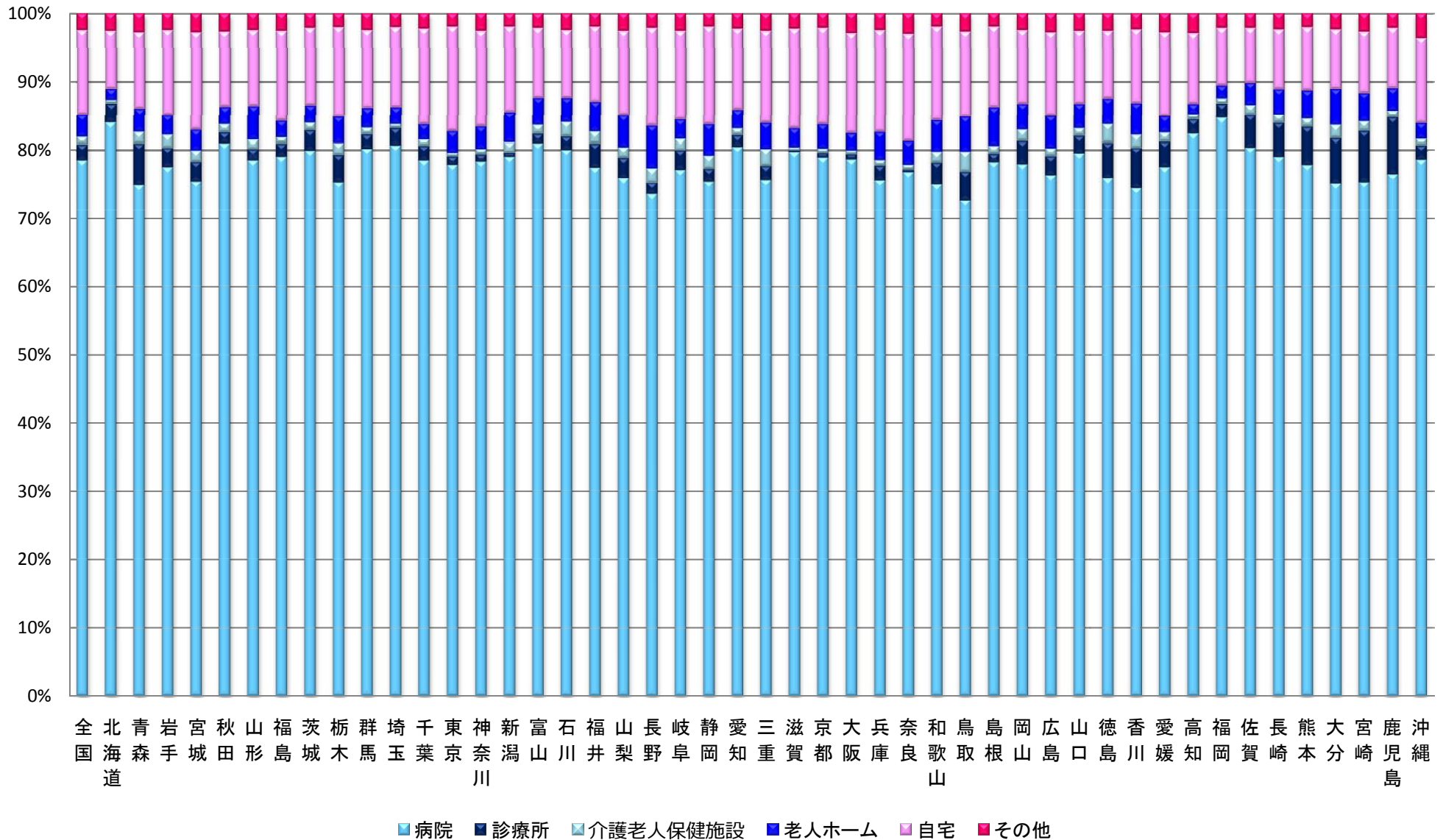
出典) 介護給付費実態調査

日本人の死亡場所

	病院	診療所	老健	老人ホーム	自宅	その他
死亡場所の割合	78.4%	2.4%	1.1%	3.2%	12.4%	2.4%
病院・診療所・老健・老人ホーム の病床数・定員数の合計を 100%とした時の割合	64.5%	5.5%	12.9%	17.1%	-	-

出典) (上段) 平成21年人口動態調査
(下段) 医療施設動態調査(平成22年8月末概数)、2010/2011年「国民の福祉の動向」

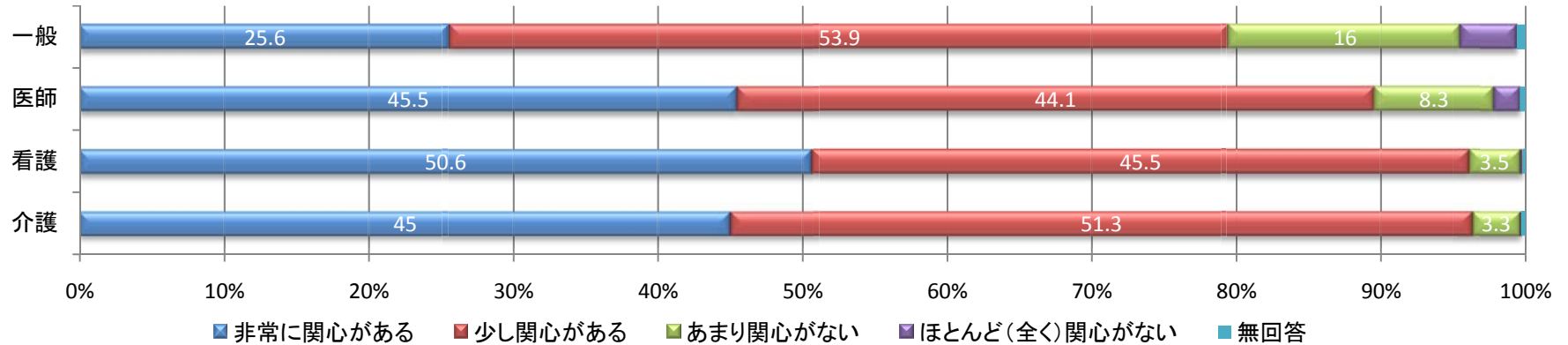
日本人の死亡場所(都道府県別)



終末期医療に関する調査(1)

■終末期医療に対する関心の有無

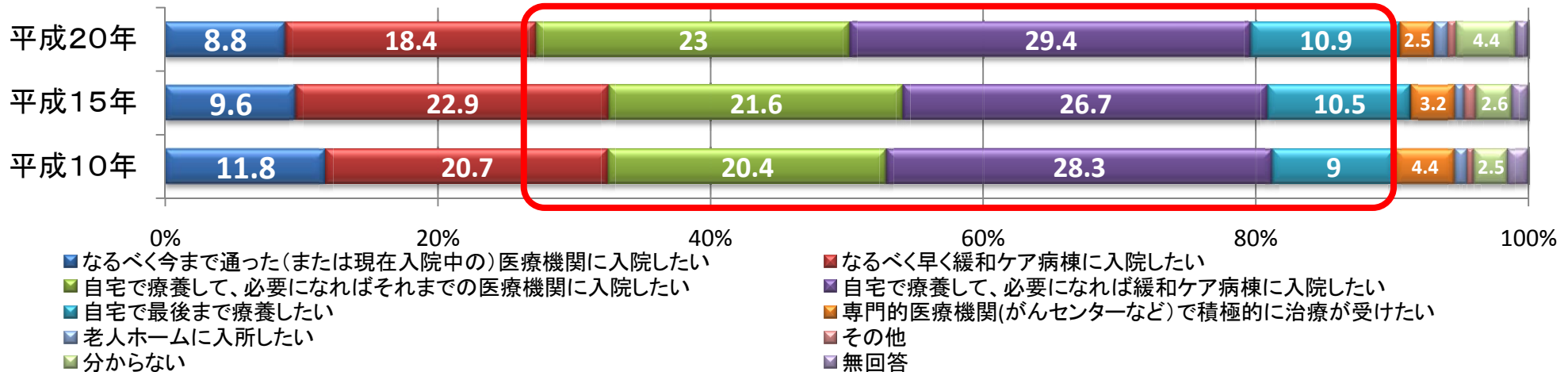
終末期医療に関して、一般国民及び医療福祉従事者ともに「非常に関心がある」、「少し関心がある」と回答した者の割合が高かった。



出典)平成20年終末期医療に関する調査

■終末期の療養場所に関する希望

自宅で療養して、必要になれば医療機関等を利用したいと回答した者の割合を合わせると、60%以上の国民が「自宅で療養したい」と回答した。

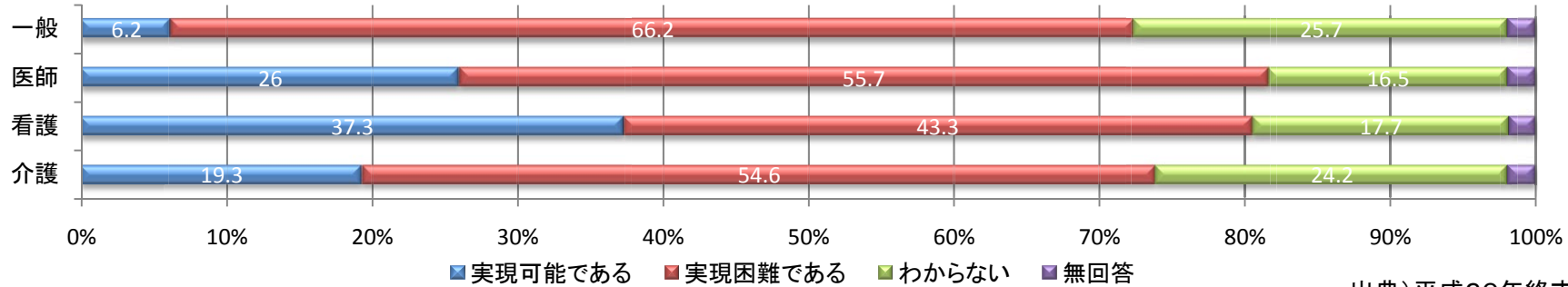


出典)終末期医療に関する調査(各年)

終末期医療に関する調査(2)

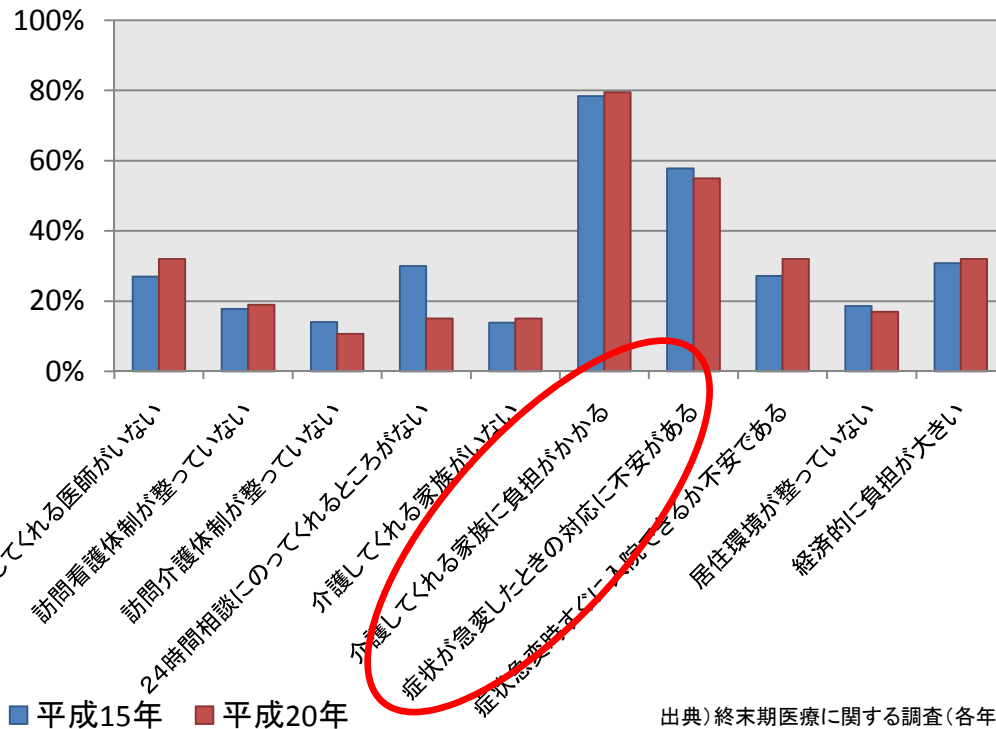
■ 自宅での療養：60%以上の国民が、最期まで自宅での療養は困難と考えている。

実現可能である」と回答した者の割合は一般国民(6%)よりも医療福祉従事者が上回った(医師26%、看護師37%、介護士19%)



出典)平成20年終末期医療に関する調査

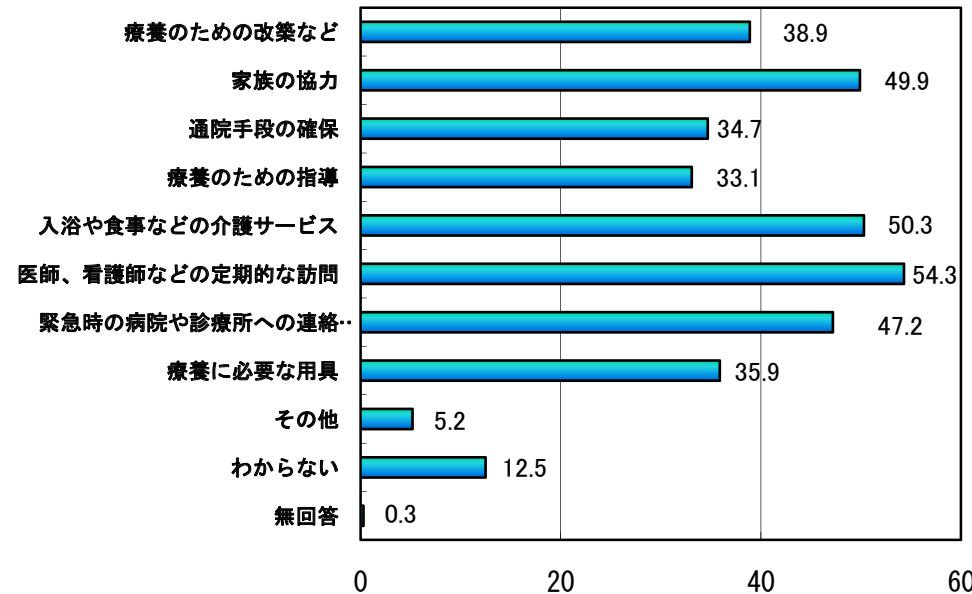
■ 自宅で最期まで療養することが困難な理由(複数回答)



出典)終末期医療に関する調査(各年)

■ 自宅療養を可能にする条件(複数回答)(※)

※「自宅で治療・療養したい」と回答した者のうち、「自宅で療養できない」と答えた者を対象

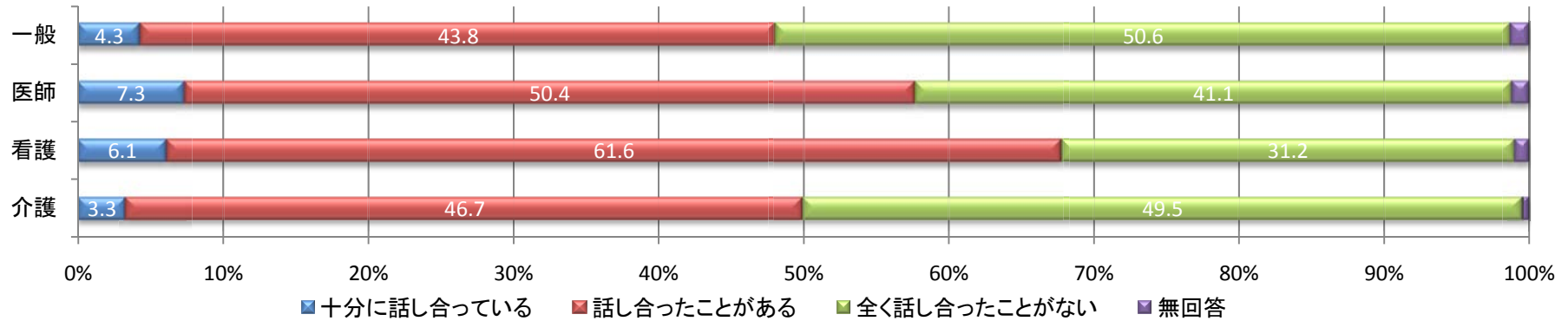


出典)平成20年度 厚生労働省「受療行動調査」 115

終末期医療に関する調査(3)

■ 延命医療の継続に関する家族との話し合いの有無について

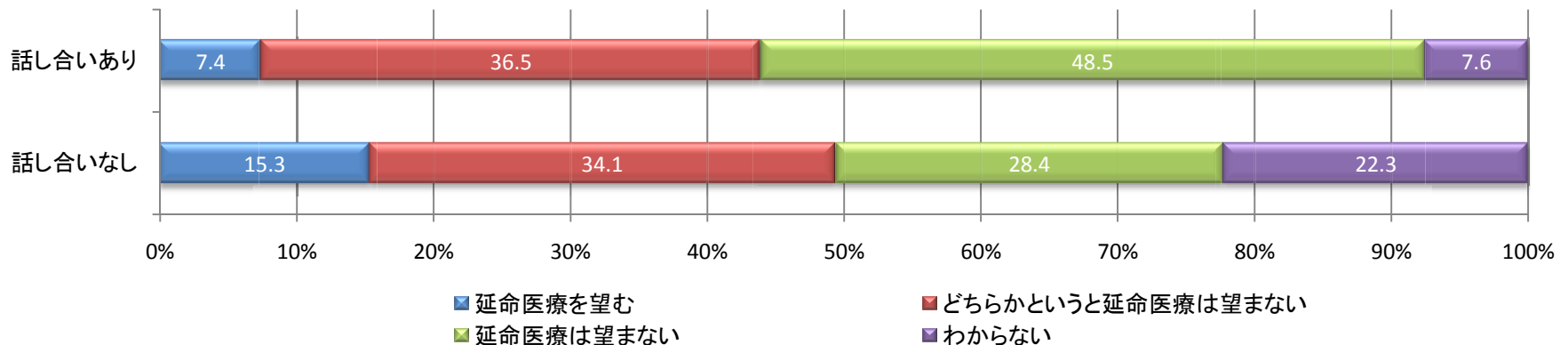
自分自身の延命医療を続けるべきか中止するべきかという問題について、「家族で話し合ったことがある」と「全く話し合ったことがない」で回答が二分した。



出典)平成20年終末期医療に関する調査

■ 自分が治る見込みがなく死期が迫っていると告げられた場合の延命医療について(一般国民)

延命医療について家族と話し合いをしている者の方が、話し合いをしていない者よりも延命医療に消極的な回答をした者の割合が多かった

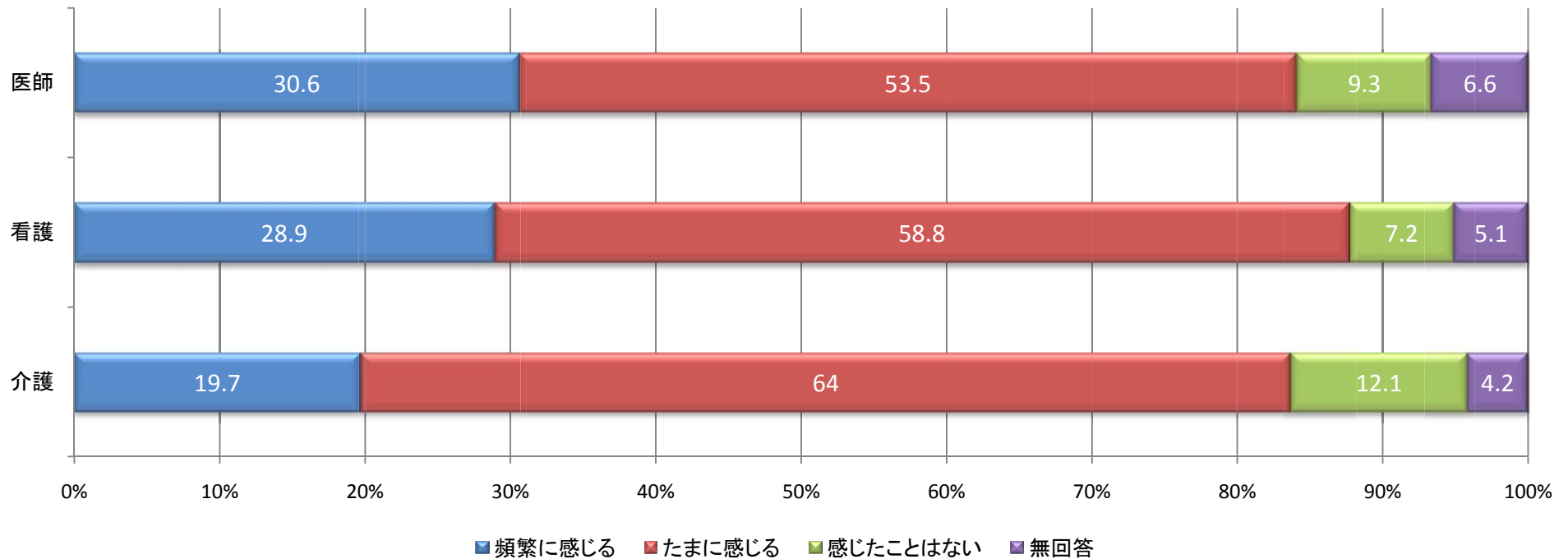


出典)平成20年終末期医療に関する調査16

終末期医療に関する調査(4)

■終末期医療にする悩みや疑問

終末期医療に対して、悩みや疑問を感じたことがある医療福祉従事者は80%を超える。



出典)平成20年終末期医療に関する調査

在宅医療に関する論点

- 子どもから高齢者に至るまで、ライフステージごとのニーズに応じた在宅医療の普及や質の確保を図るために、どのように取り組むべきか。特に、次期医療計画（平成25年から5年）に向け、数値目標等具体的な指針のあり方も含めて、どのように取り組むべきか。
- 地域における看取りも含め、本人の意思を尊重した終末期医療を実現するために、どのような取り組みが必要か。
- 在宅医療・終末期医療に携わる人材育成・確保をどのように進めるべきか。